

令和6年度

学習のねらいと進め方

各教科のシラバス

《第2学年》



大阪府立咲くやこの花中学校

教科	国語	学年	2	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。受け身ではなく積極的に参加しましょう。 ・様々な文章にふれ、「読む能力」を向上させるとともに、意思を明確に伝えるための「書く能力」をしっかり身に付けていきましょう。 ・課題は最後まであきらめずに丁寧に取り組み、期日に遅れないように提出しましょう。家庭学習においては、課題以外の予習・復習も自主的に行うようにしましょう。
--

2 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。</p> <p>（１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>（２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>（３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	ノート ワークシート 定期考査 小テスト	ノート ワークシート 定期考査 小テスト	ノート ワークシート

* 通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	数学	学年	2	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ数学を学習するのかを考え、授業に積極的に参加しましょう。 ・自分の考えを大切に、発表できるようにしましょう。また、他の人の発表をよく聴き、他の考え方も学びましょう。 ・ノートは、板書を丸写しするものではなく、自分なりのメモとなるよう工夫しましょう。 ・家庭学習を大切に、予習、復習に努めましょう。課題はしっかり提出しましょう。 ・理解を深めるためには、人に説明できることが重要です。解けるのみでなく説明できるところまで頑張りましょう。
--

2 学習の到達目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50~79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0~49% … C (努力を要する)		
評 価 方 法	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト	提出ノート 提出課題

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0~100) も示します。

教科	社会	学年	2	週当たり時間数	3
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会科を暗記科目だと思っている人がいるかもしれませんが、決してそれだけではありません。もちろん個々の人名や語句を覚えることも大切ですが、歴史の流れをその当時の事柄を考察し理解することや現代へのつながりを考えることも大切です。また、自分の言葉で意見を発表できるようになることも必要です。自分でいろいろなテーマや学習方法を決め、主体的に学習しましょう。2年生では「都道府県調査」を行います。一緒にがんばって行きましょう。

- ・地理的分野と歴史的分野について1年間学習をすすめていきます。
- ・授業では、課題に対して、諸資料をもとに自ら考えたり、調べたりしたうえで、周りの人と協同で考える活動を行います。
- ・テーマを設定し、調べたり意見を発表したりする活動も行います。
- ・授業中のノートは板書を写すだけではなく、自分の意見をメモや他者の意見のメモを取り、自身の思考の変化を記録しておきましょう。
- ・探究活動として「都道府県調査」に取り組みます。「課題設定」「調査・分析」「まとめ」「発表」の手順で行います。調査活動の一環として、都道府県庁などに質問状を送付する活動も予定しています。探究活動は3年生でも「卒業レポート」に取り組みます。

2 学習の到達目標

社会的事象の地理的・歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することをめざす。

【地理的分野】

- (1) 我が国の国土および世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や・意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

【歴史的分野】

- (1) 我が国歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

3 成績評価の方法

それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の国土の歴史、現代の政治・経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したり、それを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価基準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50～79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0～49% … C (努力を要する)		
評価方法	定期考査 小テスト 都道府県調査	定期考査 調べ学習・発表 都道府県調査	ノート 観察 都道府県調査

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0～100) も示します。

教科	理科	学年	2	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

予習よりも復習を中心に学習してください。その日に習ったことはその日のうちにしっかりと整理しておくことが大切です。また、問題集を解くことによって、自分の理解度を確認することができます。問題集を解いて、できなかつたところをノートや教科書を見直して確認してください。せっかく問題を解いてもやりっ放しでは、効果は半減します。また、普段から自然科学に興味を持って生活するように心がけましょう。

2 学習の到達目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	自然の事物・現象の中から問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的な探究をしている。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	授業における観察 レポートの作成 ペーパーテストの結果	授業における観察 レポートの作成・発表 ペーパーテストの結果	授業における観察 ノート等への記述 課題の提出状況と内容

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	英語	学年	2	週当たり時間数	5
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、集中して課題に取り組み、苦手意識をもたずに積極的に参加しましょう。 ・新出単語を確実に覚え、「Writing」「Reading」「Grammar」力を向上させるとともに、Native Speakerとの交流を通して意思を明確に伝えるための「Speaking」「Listening」力をしっかりと身に付けていきましょう。 ・課題は、期日を守って提出しましょう。家庭学習においては、教科書・副教材の予習・復習も自主的に行い、確実に英語力をつけていきましょう！

2 学習の到達目標

領域	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりと話されれば、さまざまな話題に関する簡単な内容について、その概要、要点や自分に必要な情報を聞き取ることができる ・JTEの話す英語を聞いて、70%程度の内容を理解できる。 ・ゆっくり簡単な英語で話してもらえれば日常生活での英語を聞き取ることができる(道案内、電話、買い物など) ・教師による英語の指示や説明を聞いて応答したり行動したりできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなテーマに関するまとまった文章を、語注を参考にしながら最後まで読んで、細部にとらわれることなく、その概要や要点を理解し、自分の意見を持つことができる。 ・文章の構造や段落のつながりを意識しながら読み進めて、その概要や要点を理解できる。 ・絵や写真をみながら、説明部を読んでその概要や要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する表現の一覧(つなぎ言葉や聞き返す表現など)があれば、関心のある事物、日常的话题などについて、やりとりすることができる。 ・質問に対して答えたと、2分程度付け加えることができる。 ・関心のある事物、日常的话题について即興で2往復程度やりとりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に準備をしたうえで、話の構成を意識しながらまとまりのある内容で話すことができる。 ・感情を込めたり、ジェスチャーやアイコンタクトを使ったりして、効果的に話すことができる。 ・感想を表す表現を5つ以上使うことができる。 ・準備時間が与えられれば、感想や意見を2文程度で言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の補助があれば、関心のあること、日常的なことについて、既習の言語材料を用いて、理由を含むまとまりのある文章を書ける。 ・文章構造を意識して、正しい語順で文章を書くことができる。 ・事実や人や物を説明する文章を正しい語順と文法を用いて、適切な表現方法で(手紙、メール、説明、紹介文など)書くことができる。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度をA,B,Cで示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際の実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考え方を理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	外国の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50~79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0~49% … C (努力を要する)		
評 価 方 法	定期テスト (リスニング) 定期テスト (リーディング) パフォーマンステスト	定期テスト (リスニング) 定期テスト (リーディング) パフォーマンステスト	授業における観察 ノートや課題の提出状況 パフォーマンステスト

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0~100) も示します。

教科	音楽	学年	2	週当たり時間数	1
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・「歌う」「楽器を演奏する」「音楽を聴く」ことを年間通して学習します。音楽の学習は、クラスメイトとともに実際にやってみて、試してみても価値あるものとなり、そうして感性が豊かになります。協力して作り上げることが大切です。 ・学習の到達度は、授業内での実技テストや筆記テスト、配付するワークシートの取り組み内容で評価します。

2 学習の到達目標

<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
--

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。
評価基準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評価方法	実技テスト 観察 ワークシート	実技テスト 観察	観察 ワークシート

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	美術	学年	2	週当たり時間数	1
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術を通して「表現する楽しさ」「分かちあう喜び」「豊かな心で感じ合うこと」を体験して欲しいと思います。
 気持ちを込めて作ること、自分が表現したいことを掘り下げることで、感じたことや考えたことを伝え合うことを大切に、取り組みましょう。
 作品だけでなく、アイデア用紙、鑑賞レポートなども、評価の対象になります。

2 学習の到達目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- （2）造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- （3）美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

3 成績評価の方法

それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や考え方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	ワークシート 作品	ワークシート 作品 鑑賞	振り返りシート 鑑賞

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	保健体育	学年	2	週当たり時間数	3
----	------	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業の進め方	
● 体育	・1年間を通し「ランニング、準備運動、トレーニング」を継続して行い、基礎体力の向上をはかる。 ・单元ごとの「ねらい」に応じて、学習目標・計画をたて、練習する。 ・ゲームなどを行い、記録をとりながら、練習の成果をためす。
● 保健	・教科書「中学保健体育」を中心に、「中学保健体育の学習」を使用し授業を進める。
ノートの取り方	
●	单元ごとに提示される「種目カード」を使用し、要点の整理や確認をする。
●	「中学保健体育の学習」を使用し、要点の整理や確認をする。
家庭学習(予習・復習)のしかた	
予習	保健の授業は授業中に次回の予告をするので、「中学保健体育」の該当ページを読んでおく。
復習	● 体育 ・「種目カード」を使い要点を整理し確認する。 ● 保健 ・「中学保健体育の学習」のまとめの問題をする。

2 学習の到達目標

<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 各領域の運動の特性に応じた、基本的な技能を身につけている。 健康や安全について、基本的な知識を理解し、実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動場面において、自己の課題解決に向けて考え、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 健康や安全について、課題解決をめざし、科学的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動に関心を持ち、楽しさや喜びを経験できるよう、進んで取り組もうとしている。 健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。
評価基準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50～79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0～49% … C (努力を要する)		
評価方法	授業における観察 実技テスト 小テスト ワークシート	授業における観察 実技テスト 小テスト ワークシート	授業における観察 授業の出席状況 ノート、ワークシート

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0～100) も示します。

教科	技術家庭（技術）	学年	2	週当たり時間数	2
----	----------	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

よりよい生活を送るために、生活に必要な基礎的な知識や技術を理解し、実際の生活の中でいろいろな問題を解決する方法を学習します。
 実践的・体験的な活動として実習をおこないますので、注意事項をよく聞いて、安全第一を心がけて作業をしていきましょう。

2 学習の到達目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境とのかかわりについて理解している。	生活や社会のなかから技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・提出物 ・作品・技能 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・提出物 ・作品・技能 ・定期考査 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・作品 ・振り返り・自己評価 ・ノート ・提出物

* 通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	技術家庭（家庭）	学年	2	週当たり時間数	2
----	----------	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭分野の学習は、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる力を身につけるうえで大切な学習です。特に中学生の時期は、人々に支えられて生活していることに気づくこと、そして自分も生活を支える一員としての自覚を持ち、生活をよりよくしようとする創意工夫をしていきましょう。

また、班学習などを通じて、ひとりひとりが自己の責任を果たすことの大切さや相互に協力しながら学ぶことも大切なことです。学習したことを生活に活かせるよう、しっかり勉強しましょう。

2 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- （2）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- （3）自分と家族、家庭生活と地域との関りを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 成績評価の方法

それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費生活や環境などについて理解しているとともに、それらにかかる技能を身につけている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現数などして課題を解決する力を身につけている。	家族や地域の人々と協力し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決を主体的に取り組み、振り返って改善し、生活を工夫・想像することを実践しようとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・実習 ・振り返りシート ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート ・プリント等への記述

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。